

事業名	対 象	内 容	日 程	問合せ先
小さい子向け観察会	3歳～小学校4年生 (保護者同伴)	干潟に入り、生きものを観察してその生態を学びます	5月16日(日)	①
干潟体験	小学校4年生～大人 (小学生は保護者同伴)	干潟に入り、生きものを観察してその生態を学びます	7月22日(木・祝)・8月9日(月・祝)	①
教職員向けプログラム	小中学校教職員	教職員の方対象に、授業で扱う藤前干潟の生きものとごみ処理行政についてお話しし、干潟体験も行います	6月5日(土)・7月27日(火)	①
ひがたにくるトリ、どんなトリ?	小学校1～3年生 (保護者同伴)	野鳥観察をした後、カモのミニ模型へ色ぬりをします 【講師：ハンドメイド作家 Cha Chatto さん】	8月5日(木)	①
干潟を音であそぼ	小学生 (保護者同伴)	干潟と音楽を組み合わせたイベント [演奏者：パーカッショニスト 本多"taco-bow"正典さん]	8月13日(金)	②
干潟(ヨシ原)の人気者 カニとトビハゼに会おう!	小学生～大人 (小学生は保護者同伴)	ヨシ原の中に入って、生きものを観察して その生態を学びます	9月23日(木・祝)・10月17日(日)	①
藤前干潟×ジロングトーク	どなたでも	藤前干潟とかかわりの深いオーストラリアジロング市 について語る	9月頃	①
ひがたにくるトリ、どんなトリ?	どなたでも	干潟の野鳥紹介の後、鳥のミニ模型へ色ぬりをします	11月20日(土)	①
サイエンスカフェ	どなたでも	Coming soon...	秋～冬頃	①
藤前干潟ラムサール条約登録20周年 プレ・イヤーオンライン講座	どなたでも	2022年11月18日は 藤前干潟ラムサール条約登録20周年! そのプレ・イヤーとして、 楽しいイベントを予定しています!	3回程度実施予定	①
藤前干潟ラムサール条約登録20周年 プレ・イヤーイベント	どなたでも		11月頃	①
藤前干潟写真展～藤前干潟の魅力～	どなたでも	藤前干潟の風景や野鳥などの生きものの写真を 展示します	8月21日(土)～10月10日(日)	⑥
エコパルなごやマンスリー展示	どなたでも	Coming soon...	11月	①
藤前干潟×メーカーズピア	どなたでも	Coming soon...	11～12月	①

事業名	主催・問合せ先	日 程
'21春の藤前干潟グリーン大作戦	藤前干潟グリーン大作戦実行委員会 ⑤	5月29日(土)
'21秋の藤前干潟グリーン大作戦	藤前干潟グリーン大作戦実行委員会 ⑤	10月23日(土)

事業名	主催・問合せ先	日 程
愛鳥週間写真展	名古屋市野鳥観察館 ⑥	4月24日(土)～5月30日(日)
藤前干潟 生きものまつり	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	4月29日(木・祝)
愛岐の里山たいけん隊～春の里山に行こう!～	「なごや環境大学」実行委員会 ⑧	5月23日(日)
'21春の藤前干潟グリーン大作戦 干潟観察会	藤前干潟グリーン大作戦実行委員会 ⑤	5月29日(土)
稲永V C環境学習プログラム 藤前干潟でカニを観察しよう!	稲永ビジターセンター ③	6月6日(日)
稲永V C企画展 もし君が干潟の生き物になったら(仮題)	稲永ビジターセンター ③	7月24日(土)～11月30日(火)
藤前A C企画展 藤前干潟のハンター展	藤前活動センター ④	7月24日(土)～12月19日(日)
干潟の学校 プラント観察会	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	8月15日(日)
秋の野鳥写真展	名古屋市野鳥観察館 ⑥	8月21日(土)～10月10日(日)
藤前A C環境学習プログラム 夏休み!干潟観察会～干潟の「食べる・食べられる」	藤前活動センター ④	8月22日(日)
干潟の学校 秋の干潟観察会	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	9月5日(日)
干潟の学校 干潟の生きもの観察会	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	10月2日(土)
干潟の学校 石ころ干潟観察会	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	10月3日(日)
'21秋の藤前干潟グリーン大作戦 干潟観察会	藤前干潟グリーン大作戦実行委員会 ⑤	10月23日(土)
愛岐の里山たいけん隊～秋の里山に行こう!～	「なごや環境大学」実行委員会 ⑧	11月予定
干潟の学校 ミサゴ&冬鳥ウォッチング	NPO法人 藤前干潟を守る会 ⑦	12月5日(日)
環境省レンジャー写真展2021	環境省名古屋自然保護官事務所 ②	未定(2回実施予定)
環境省 藤前干潟写真展	環境省名古屋自然保護官事務所 ②	未定
渡り鳥調査隊～藤前干潟の野鳥を観察しよう～	名古屋市野鳥観察館 ⑥	

↓ 下表のとおり ↓

問合せ先	電 話	Eメール
①藤前干潟ふれあい事業実行委員会事務局 (名古屋市環境学習センター内)	052-223-1067	a2662@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
②環境省名古屋自然保護官事務所	052-389-2877	WB-NAGOYA@env.go.jp
③稲永ビジターセンター	052-389-5821	—
④藤前活動センター	052-309-7260	—
⑤藤前干潟グリーン大作戦実行委員会事務局	090-6399-9774	cleanupfujimae@gmail.com
⑥名古屋市野鳥観察館	052-381-0160	nagoya.kansatukan@car.ocn.ne.jp
⑦NPO法人 藤前干潟を守る会	080-5157-2002	info@fujimae.org
⑧「なごや環境大学」実行委員会	052-223-1223	jimu@n-kd.jp

渡り鳥調査隊日程表

日 程	時 間
4月24日(土)	10時～12時
5月8日(土)	10時～12時
6月5日(土)	10時～12時
7月24日(土)	10時～12時
8月21日(土)	10時～12時
9月18日(土)	10時～12時
10月9日(土)	10時～12時
11月20日(土)	10時～12時
12月4日(土)	10時～12時
1月15日(土)	10時～12時
2月19日(土)	10時～12時
3月19日(土)	10時～12時

藤前干潟ふれあい事業

みて! ふれて! かんじる!

2021年度

みて!

ふれて!

かんじる!

藤前干潟
ふれあい
事業

藤前干潟の魅力を
皆さんにお伝えしたくて
名古屋市、環境省、NPO等が
協力して様々なイベントを
行っています!

藤前干潟ふれあい事業実行委員会

(事務局：名古屋市環境学習センター)

〒460-0008

名古屋市中区栄一丁目23番13号

伏見ライフプラザ13階 名古屋市環境学習センター内

TEL

052-223-1067

FAX

052-223-4199

Eメール

a2662@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

Eメール



ウェブサイト



藤前干潟ふれあい事業

検索

展示

写真やイラストから野鳥や藤前干潟の魅力をご紹介します。



ワークショップ

鳥の模型に色を塗ったり、音楽の演奏をしてみたり、劇をやってみたり！
いろいろな体験をととして藤前干潟とふれあいました。



イベントの様子をのぞいてみよう！

干潟体験

たくさんの干潟の生きものと出会うことが出来ました♪
今年はどんな生きものに会えるのでしょうか？



講演

実際に生きものにふれたり、まったり飲み物を飲んだり…。
様々な手法でじっくり藤前干潟のお話を聞くことが出来ました。



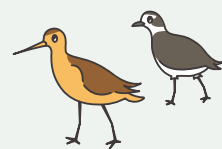
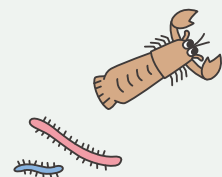
映画会&トークショー

干潟に関する映画を鑑賞し、監督とオンラインで交流をしました。



藤前干潟の歴史

～ 守られた干潟を未来へつなぐ～



その昔、伊勢湾の奥には広大な干潟が広がっていました。しかし新田開発や工業用地として徐々に埋立てが進み、最後にかろうじて残されたのが藤前干潟です。

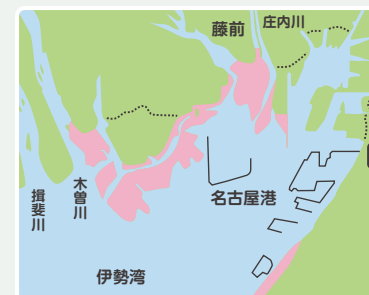
しかし、その残されたわずかな干潟にも埋立ての危機が訪れます。ごみの埋立処分場としての計画が発表されたのです。

当時の名古屋市は年々ごみが増え続けていて、今まで使用していた埋立処分場ではもうわずか数年で埋める場所が足りなくなってしまうと予想されたため、新しい埋立場所が必要となっていたのです。

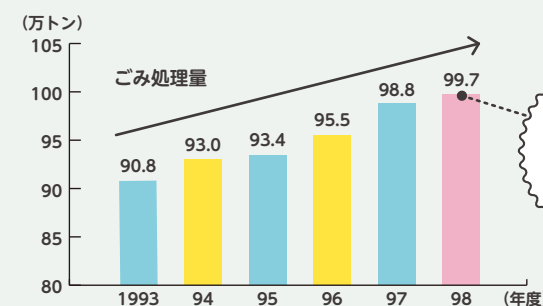
それでも、藤前干潟は渡り鳥をはじめ多くの生きものが生息する大切な場所であったため、守る必要があるとの市民の声が高まりました。

名古屋市は悩みぬいた結果、「ごみの処理も渡り鳥もどちらも大切」として、1999年1月に埋立計画を中止し、2月にごみを大幅に減らすことを呼びかける「ごみ非常事態宣言」を出しました。

そこから市民、事業者、行政が一体となり、名古屋市の人々が力を合わせて徹底的な分別・リサイクルに取り組んだ結果、今では埋立量を5分の1以下にまで減らすことができました。



点線：埋立て前の海岸線 ピンク：干潟



焼却・埋立処理能力の限界

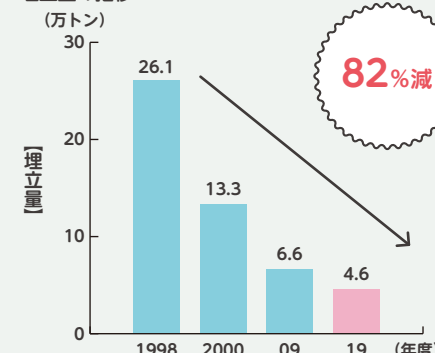
ごみ集積場所



愛岐処分場



埋立量の推移



82%減

ラムサール条約湿地 藤前干潟

ラムサール条約は1971年2月2日にイランの都市ラムサールにて開催された国際会議で採択された、正式名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」と呼ばれている条約です。

藤前干潟は、国の鳥獣保護区に指定された2002年にラムサール条約に登録されました。多くの人々の協力のもとに守られた、渡り鳥の重要な飛来地である藤前干潟は2022年11月18日にラムサール条約登録20周年をむかえます。これからも引き続き藤前干潟を守るため、名古屋の環境のため、一人ひとりが分別・リサイクルなどの環境を守る活動に取り組むことが大切です。

